

Cantabile

2008. March

Vol. 3

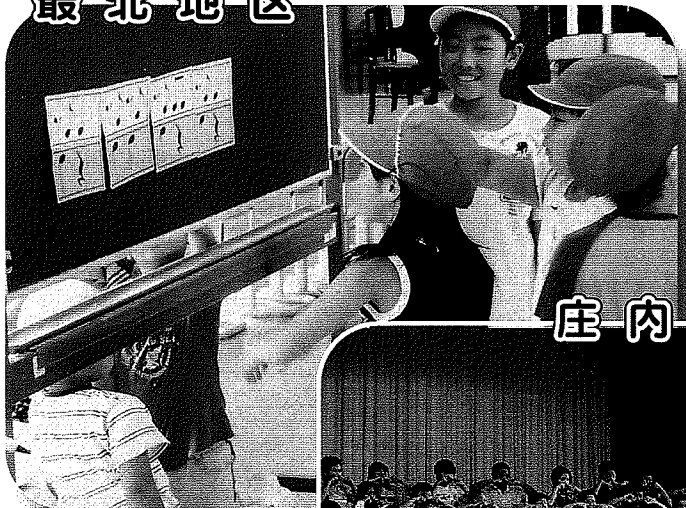
発行

山形県音楽教育連盟
山形県小中学校教育研究会

発行日

平成20年3月31日

最北地区



村山地区



庄内地区



高等学校



置賜地区



県合唱指導者講習会 (小学校)

ポスト東北音研の 研究の充実を

会長 佐藤 栄起

先日、東北音研郡山大会に参加してまいりました。さすが合唱・器楽の両分野で全国レベルの地区だけあって、子ども達の表現力・演奏レベルの高さには、眼を見張るものがありました。そして、改めて山形県の現状に思いをはせたところです。

今年度の我々の課題は、「ポスト東北音研の研究をどう充実させるか」ということです。例年の事業として「合唱講習会」「作曲コンクール」「器楽指導・アンサンブル講習会(小学校のみ)」「NHK全国音楽コンクール(共催)」「研究推進・会報事業」の五つがあり、それぞれ担当者の献身的なご努力で大きな成果を上げていることは、皆様方ご承知の通りです。

特に注目しなければならないのは、この会報三号の主な内容にもなっている「四地区開催の研究協議会」です。県大会が六年に一度開催になったことにもない、東北大会開催年の間の五年間の研究姿勢が問われることになると思っています。そうした意味で、年度当初に「どのような共通課題を設定して研究協議会を推進するのか」について具体的に提示すべきであったと反省しております。来年度は、現在の研究主題である「通い合う心響き合う音楽」を総括しながら、新たな研究主題を構築する一年になります。

そのためには、今年度開催された各地区の研究協議会の動向を分析しつつ、理事会議での討議をふまえた活動が必要になります。その前提となるのが、音楽部員一人一人の確かな実践の積み重ねであると思います。部員の皆様方の不断の努力を切にお願い申し上げます。次第です。

村山地区

西川町立沼山小学校・西川中学校

奥山 由紀・長岡 昌子

今年度の村山地区音楽研究協議会では、神奈川県横須賀市立追浜中学校校長相澤宏一先生をお迎えして、合唱の指導法についてご教授いただきました。

〈村山地区研究協議会〉

期日 平成十九年九月十九日(水)

会場 山形市立第二中学校

講師 神奈川県横須賀市立追浜中学校校長相澤宏一

校長 相澤宏一先生

内容 合唱指導法

① クラス合唱指導

山形市立第二中学校二年

合唱曲「COSMOS」

② 合唱部指導

山形市立第二中学校音楽部

合唱曲「めぐりあい」

③ 指導者講習会

(主な)指導内容

○ 姿勢

肩幅に足を開き、一歩片足をひく。いつでも一歩踏み出せるように重心を前に置く。肩を後ろに反らせることにより、胸を開かせる。

○ 腹式呼吸

息を吸い込み、息を止め(四拍分)、吐き出す。息を使い切ることが重要。

○ 口型(アイウエオ)

言葉が伝わるように意識して発音する。溶け合う声と溶け合わない声の違い

やわらかい響きと声質を目標とする。鼻腔に響かせる。鼻を指でつまんで響きが変わるかどうかが確認する。眉間が振動するようにする。

○ 音楽の要素

① テンポ ② 強弱 ③ 発音、子音・母音
④ アーティキュレーション
○ 練習について
少人数のグループ合唱を取り入れる。録音を聴き、どこを直すか意識させる。子ども自身がわかる言葉でほめることで歌う意欲を高める。
心に訴える曲を選曲させる。



置賜地区

長井市立長井北中学校

飯澤いづみ

十月十八日、埼玉大学教育学部の八木正一氏を講師にお招きし、「楽しい音楽の授業づくり」と題する講演をお聞きしました。

講演の始めに八木氏は、「楽」という文字は、親指で音を鳴らす形や太鼓を表す形からできているという興味深いお話をなさいました。実際に、自分の目や心が向いているときに楽しさを感じるものですが、確かに八木氏がおっしゃるとおり、楽しい授業とは、「子ども達の目や心が先生や教材や学習活動に向いている授業」であるといえそうです。

そんな楽しい授業をつくる次の四つのポイントも学びました。

① 教材や学習活動の工夫を

リズムの認知能力は大切。音楽だけでなく生きていく力にも関わっていく。リズム遊びはたくさんすべき。パートナースングや輪唱など飽きないで繰り返してきる活動の工夫が大切。

② 有実感のある授業を

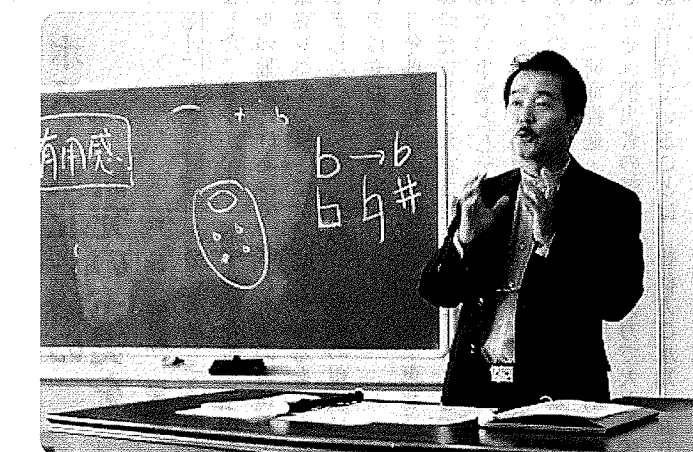
生活に役立つことを学ぶと楽しくなる。生活的な課題を解決させた、まわりを感動させた、やってよかった、新しい発見があった、などが楽しい授業につながる。

③ 授業の構造を変えてみよう

垂直型から水平型の授業、つまり横の構造(システム)に変えてみる。

合唱団風授業(縦

型)の授業はあまりよいとはいえない。新しい授業をつくる。



④ 広がりのある授業に
世界に目を向けさせたい。ヨーロッパや日本の音楽だけでなく、東南アジアや中近東など、世界の音楽に授業者自身ももっと興味や関心を持つこと。
八木氏は、これまで音楽科における教材づくりや授業づくりなど実践的な研究に取り組んでいらつしやいます。西置賜地区へは過去にもおいでいただき何度もご教授をいただいたことがありましたが、もう一度ぜひ!という部員の熱い要望で実現した講演会でした。

思わず引き込まれる、八木先生の授業づくり、そして、そのお人柄に接するとき、音楽教育に携わる喜びを感じ、音楽の持つ不思議な魅力を再確認した講演会でした。

庄内地区

鶴岡市立鶴岡第三中学校

阿部 佳子

今年、田川音連・田川学研音楽専門部では、次のような活動をしています。

○ 合唱指導者講習会

○ 音楽鑑賞教室

○ 小学校授業研究会

○ 実技研修会

○ 広報発行(年二回程度)

今年で二十一回目となる合唱指導講習会は、八月一日に羽黒コミュニティセンターでおこなわれました。講師は、仙台市立金剛小学校の大槻葉子先生をお迎えしました。(今回は三度目になります。)

「歌って踊って音楽集をつくりをしてみよう」というテーマのもと、午前中は三川町立東郷小学校の三年生と鶴岡市立朝陽第一小学校の五年生の歌声をモデルにしたがらの講習、午後からは実際に先生方を対象に、曲づくりのポイントと音楽集の作り方を指導していただきました。

参加した先生方は、大槻先生のパワフルな指導に引きこまれ、ミュージカルさながらの歌と踊りで、時間を忘れるほどの楽しい時間を過ごすことができました。

酒田飽海地区

県合唱指導者講習会

酒田市立島海小学校

村上 宣子

今年度の県合唱指導者講習会は酒田飽海地区を会場に行われました。

小学校の部は、午前中に中学年、高学年

の子どもの達の合唱指導を、午後からは指導者講習会として、蓮沼勇一先生(私立暁星小学校教諭)のご指導のもと、美しい二部合唱曲に挑戦しました。発声指導では、鼻つかみと指囁みといったユニークな指導法が行われました。子ども達の声の出し方がみるみる変わっていき、参加者の先生方からは大きな拍手が送られました。



平成19年度

4地区・高等学校 研究協議会

～あしあと～

最北地区

村山市立

楯岡小学校

川上 則子

今年度は、北村山地区で次のように授業研究会、講師による合唱指導を行いました。

○ 期日 九月二十一日(金)

○ 会場 東根市立大富小学校

○ 授業者 井上洋子教諭・井上美由紀教諭

○ 題材名 リズムのつてあそぼう

○ 教材名 山のポルカ他

☆指導・助言者 羽陽学園短期大学準教授

高橋 寛先生

バッテリーリズムを作る遊びを通してリズム譜を読んだり、二拍子の拍のつてリズム伴奏をしたりすることをねらいとした二年生の授業を行いました。

事後研では、バッテリーリズムの扱い方やかかわらせ方などが話題になりました。

高橋寛先生から、リズムの勉強の仕方について次のようなご助言がありました。①

手だけでなく、歩いたり動いたりするとリズムをつかみやすい。②歩くスピードを変えない。③かかとをついたり、つま先だけで歩いたりする。④右回りに歩いたり左回りに歩いたりする工夫する。⑤声、手足を使って遊びながら行う。

大変有意義な充実した研修となりました。

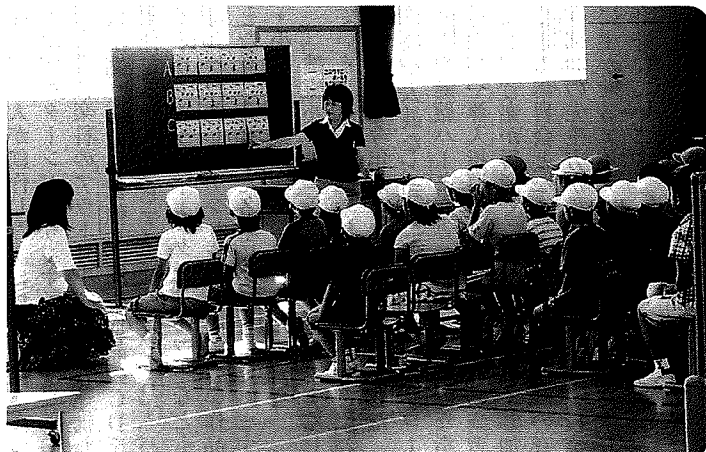
〈中学校〉

○ 会場 東根市立大富中学校

○ 授業者 半澤朋子教諭

○ 題材名 リズムの創作と表現

今年度の県合唱指導者講習会は酒田飽海地区を会場に行われました。



高等学校

山形県立北村山高等学校

布川 清史

県高等学校教育研究会芸術部会音楽専門部研究大会が六月六、七日の二日間に渡り、田川地区において行われた。研究授業では、県立鶴岡南高等学校の阿部隆幸教諭が、同校一学年による音楽Iの授業を公開した。題材名を「豊かな響き、混声四部合唱曲を歌おう」とし、立原道造作詞、木下牧子作曲の「夢見たものは」を教材に、混声四部合唱の授業を展開した。複雑な和声進行ながら、パートリーダーを中心に真剣に音取りをする生徒達の姿は大変印象的であった。

続いて、会場を、国の指定重要文化財である鶴岡カトリック教会に移し、東京純心女子大学教授でオルガニストの酒井多賀志氏を迎えての講演が行われた。「ヨーロッパ音楽の源流から現在を考える」と題し、前半は氏所有のオルガンや礼拝堂に設置されているパイプオルガンでの演奏を加えて、フレスコバルデイやバッハなどを中心にオルガン音楽の歴史についての講義が、後半はネウマ譜の読譜法の実践を交えながら、グレゴリオ聖歌についての講義と、パレストリーナやモーツァルトの合唱曲の実践が行われた。

続いて、研究大会開催地区である田川地区の音楽担当の先生方による研究演奏が行われた。酒井先生のオルガン

伴奏によるバッハのマタイ受難曲（抜粋）の合唱であった。

翌七日は会場を湯野浜温泉「亀や」に移し、県立東根工業高等学校の板垣和子教諭による研究発表「楽しくやさしい創作指導の実践」が行われた。各高校による生徒の実状も様々で一律に扱いにくい創作分野であるが、生き生きと創作活動に取り組む生徒の姿が、実際の作品とともに報告された。その後音楽専門部総会が行われ、研究大会は終了した。



今、県音連では……

山形県音楽教育連盟では、各地区の研究協議会をはじめ、様々な事業を行い、先生方の研修を深めています。三十年以上の活動が続いている事業もあるのですが、県内の先生方に伝わらない情報もあります。今年の県音連の動き、そして今後の流れを会報を通して伝えていきたいと思います。

○各地区研究協議会

昨年度、最北地区で、東北大会が行われましたが、この大会は山形県大会を兼ねており、六年に一度開催されます。次回は平成二十四年に、置賜地区で県・東北大会が行われる予定です。次回の大会までの五年間は、各地区での研究協議会が開催されます。ポスト東北音研に向けて、自主研修会の設定や研究成果の公開など具体的な研究体制を設定していくことが求められます。そこで各地区の研究推進担当の先生方を中心に、有意義な研究協議会を運営していくと共に、新しい大会主題を検討していくことが今後の課題となっています。

○県音連の事業

県音連では毎年五つの事業を行っています。この会報もその事業の一つです。県合唱指導者講習会は、今年で第二十六回になります。以前は、山形市内の学校で行われていましたが、平成十五年以降、各地区のローテーションとなりました。東北大会開催地区は、二年前から優先的に講習会を開き、合唱のレベルアップを図っています。今年度は、庄内地区で行われました。平成二十年は、山形で、平成二十二・三年は置賜地区で開催となります。その他に、作曲コンクールや器楽アンサンブルなどの事業があります。今回はこの二つの事業内容を紹介します。

●作曲コンクール

三十六回をむかえた作曲コンクールは、小中高の児童生徒の課題詞に旋律を創る作

品と、本人が創作した詞に旋律を創る二つの創作パターンがあります。昨年度より、山形大学音楽科のアウトリーチ活動と連携し、大学生へ編曲を依頼し、優秀作品のCDを製作しています。ピアノ伴奏のみならず、バイオリンやフルート、クラリネットなども加わった美しいアンサンブルの美しい作品となり、入賞した各学校に配布しています。

●小学校器楽指導アンサンブル講習会

「鍵盤ハーモニカ講習会」として実施していましたが、低学年対象の講習会と思われるため、今年から名称を変更しました。篠笛や太鼓など和楽器の研修や、リコーダーや鍵盤ハーモニカの基礎・基本的な指導内容や導入指導の方法、合奏指導の講習など、音楽が得意でない先生も幅広く参加できる講習会となっています。各地区の音楽部会の先生方が講師となっており、授業に生かせるアイデアをいただくと大変好評を得ています。

このような様々な事業には、各地区の運営委員の先生方が携わっています。活動に対する御意見・要望等がありましたら、運営委員の先生方に言っていたら、今後の活動に生かしていきたいと思います。

あとがき

カンタービレ3号は、今年度の研究協議会の研修報告を中心にリニューアルいたしました。発行も年度内に先生方の手に渡るように工夫しました。これからも県内の先生方に、幅広く情報が伝わるようにすると共に、たくさん先生方が参加できるように会報にしていきたいと思えます。会報読後に、「音楽すったい」となるような情報誌をめざして……。

会報担当 色部（滝山小）

武山（山南小）

小島（山八中）